

景観まちづくり活動・教育部門 受賞活動一覧

大賞 国土交通大臣賞

活動名	活動エリア	応募者
<small>しらかわ</small> 白川「緑の区間」における 水辺の賑わいを創出するための地域活動	熊本県 熊本市	・白川「緑の区間」利活用推進協議会

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

活動名	活動エリア	応募者
松本の都市デザイン・ 景観を考える講座・ワークショップ	長野県 松本市	・松本市
近江八景と東海道でつながる 大津市と草津市の景観づくり	滋賀県 大津市・草津市	・びわこ大津草津景観推進協議会 ・公益社団法人滋賀県建築士会 大津地区委員会・同湖南地区委員会
アーバンデザイン・ スマートシテイスクール松山	愛媛県 松山市	・松山アーバンデザインセンター

特別賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

活動名	活動エリア	応募者
世界文化遺産 姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業	兵庫県 姫路市	・姫路市立白鷺小中学校 ・白鷺学校運営協議会

総評

審査委員長 小澤 紀美子

本部門への応募数が減少傾向にあることは残念だが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下においても現地視察を踏まえて大賞と優秀賞と特別賞を選出することができた。応募いただいた活動は多彩で地域の独自性を踏まえ、さらに魅力的な取り組みであったと思う。

まず、第一次審査では、書類に記述されている内容で審査を行った。それぞれの専門とする分野の視点から活発な議論が展開されたが、その評価のポイントは募集要領に記載されている5つの評価軸、①継続的な取り組み、②取り組み主体の連携性、③実施方法や内容の独自性、④双方向性や対話性、さらに⑤波及効果や良好な景観形成などに対する顕著な効果の発現性、である。こうした評価点に基づいて現地に赴いて、専門的な視点からも評価を確実に行うこととし、現地視察・調査の対象を絞り込んだ。

第二次審査は現地視察・調査の結果を各担当の審査委員が審査会でパワーポイントでのプレゼンを行い、今年度は大賞として1件、優秀賞として3件、さらに特別賞1件を選定した。特に、今年度の特別賞は、国宝として指定されている城郭、姫路城の特別史跡エリア内での姫路市蝶のジャコウアゲハの飛び交う生育環境の保全を目指し食草のウマノスズクサを植えて「400年前の姫路城築城当時の城下地域」の再現を目指しており、重層的な生活文化への新たな価値と命のつながりを見出す活動として時間が紡ぎ出す「景観」という独自の取り組みとして特別賞として評価することとした。

受賞された各取り組みや実践に関しての評価に関しては、各審査講評を参照していただきたいと思う。評価されたそれぞれの活動は地域の活性化や持続性をめざして、地域の住民の方々や次世代を担う方々との連携と学び合う関係づくりをしながら人材育成など着実に進めており、活動の効果の発現・発信に向けての魅力的な努力が行われているといえる。

今回、惜しくも受賞を逃した団体の活動にも多くの評価すべき点があるが、本部門の評価ポイントとしての5つの評価軸に配慮していただき、さらに受賞活動団体の受賞理由を熟慮していただき、今後とも活動を継続して、再度の応募を期待している。次年度も、多彩な活動による全国各地の成果の応募を期待したいと思う。

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

松本の都市デザイン・景観を考える講座・ワークショップ

活動エリア 松本市

応募者 松本市

活動概要

松本市では、都市デザイン活動として市民の方々と一緒に、景観の成り立ちを共に考え、理解を深めるため、街歩きやワークショップを連携させた講座を行ってきた。講座においては、まちや景観を「知る」ことだけでなく、より良く変化をさせる活動と結びつけたり、まちや景観を表現して、人に伝える取り組みを重視し、より良い景観形成に必要なまちのコミュニケーション力を高める活動を地道に続けてきた。

講座参加者が小公園や広場の使われ方を観察し、使い方を試すなどの経験を踏まえてその場の本来の使われ方やランドスケープについて対話することで生まれた提案による空間改修では、利用者の増加や景観の向上が図られた。

また、看板に関する講座では参加者が看板を深く読みとき景観を考えるレベルの高い原稿を書き、「私の看板物語」という冊子を発行するなど、景観を語り伝え、対話するコミュニケーション文化を育むことにつながっている。

審査講評

松本市の中心市街地に大型ショッピングセンターが建設されることを契機に、2009年民間有志による学習会がスタートした。それを受けて、公民館が「景観講座」を開始し、松本市は2014年都市デザイン担当、都市デザイン戦略アドバイザーを設置した。その後、お城周辺の湧水を生かした街かど広場などの空間整備にあたっては、景観講座で学んだ市民がワークショップを実施する中で魅力的なデザインが実現した。さらに、一連の市民と行政の連携は歴史的建造物の保全や民地内の小径の整備、屋外広告物の調査研究「松本看板講座」の成果として「私の看板物語」の発行、古い看板を生かした事業などにも発展していることは興味深い。公民連携の都市づくりがこの8年間実践され、成果をあげていることは、高く評価できる。(卯月)



お気に入りの石を埋め込むワークショップを行い、子どもたちが景観に対する興味をもつきっかけを創出した。



伊織霊水前小公園は、ワークショップの意見を反映することで、子どもたちが遊ぶ広場となった。



隣地との壁を取り外し、植栽の変更・設置物再配置を行った結果、広場が心地よくなった。もともとあったガス灯の光を活かし、夜間景観の創出も行っている。



令和2年度の講座では講座参加者が注目した看板の店舗について自ら取材・執筆し、GoogleSlidesを活用してオンラインでレイアウトや編集作業も行って完成したページの数々。